

漢字の読み書きが苦手な児童の指導(1)

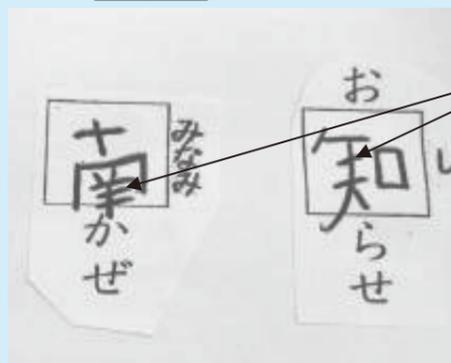
アセスメントの実施

「文字の読み書きチェックリスト」 (通級指導学級版・通常の学級版の実施)



【チェックリスト(案)の結果から】

- ・ 独特の筆順である。
- ・ 漢字の細かい部分を意識しない。



「横棒」が一本多い。

★ WISC-Ⅲの検査結果からは、「部分を見て、全体像をイメージして組み立てる力が弱い」ことも明らかになりました。

★ 本児は、書き順を注意されることが嫌で、漢字練習に意欲的に取り組むことができないでいました。

指導目標と指導の手だて

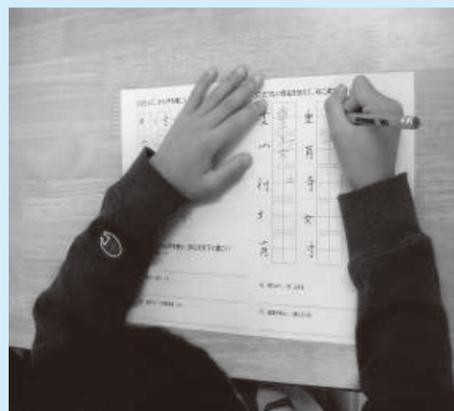
- ◆ 漢字をよく見比べよう！
- ◆ 線の数や交わりを意識できるようになろう！
- ◆ 覚えた漢字を使ってみよう！

指導の手だて

- ★ 漢字の間違い探し。
- ★ 漢字の部分を見て書く。
- ★ 覚えた漢字で文を作る。

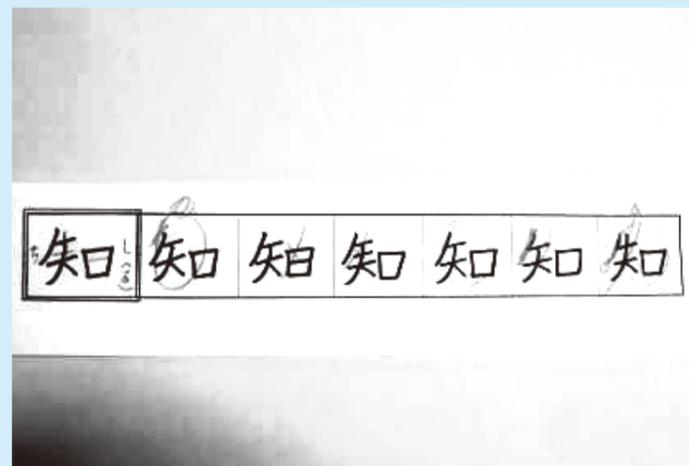


・ 漢字を正しく書くことを優先しました。確実に書けるようになってから、書き順を練習するようにしました。



漢字の部分を見て書く

漢字の間違い探し(指導内容・方法の工夫)



漢字の間違い探し



漢字を使った文作り

- (1) 漢字の間違いに気付き、「横棒が多い」等、言葉で説明をさせて線の数や交わりに気が付くように指導しました。
- (2) 漢字の一部分を見て、一つの漢字を合成する指導をしました。
- (3) 書いた漢字は例文を見て文の中で使えるように練習しました。

指導の成果(通級指導学級・在籍学級)

- ★ 漢字の線の数や交わりに注意しながら、漢字が書けるようになってきました。
- ★ 正しく書ける漢字が増えてくると、自信をもって書けるようになりました。

★ 本児は、在籍学級でも、あらかじめ赤鉛筆で薄く下書きをする支援を受けながら、漢字を書けるようになりました。

- ◆ 細かい部分を意識して書けるよう、教材や指導方法を工夫することにより、書くことへの意欲が高まることが分かりました。



漢字の読み書きが苦手な児童の指導(2)

指導目標と指導の手だて

◆漢字の読み書きが苦手な児童の指導について、以下の指導目標を立て、

「読み書き支援プログラム」

を活用して学習に取り組みました。

★学年相当の漢字を読み書きできるようになろう！

★漢字の意味を調べて覚えよう！



【指導の手だて(3つの学習)】

- 1 「漢字かるた」
- 2 「漢字読みプリント言葉のワーク」
- 3 「漢字書きプリント言葉のワーク」

指導1 漢字かるた



学習した漢字を使ってカルタを作り、ゲームをします。

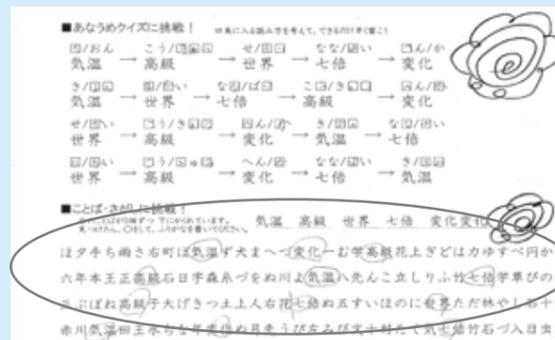
日	日	く
1	漢字-(A・B・C)	読み-(A・B・C)
2	漢字-(A・B・C)	読み-(A・B・C)
3	漢字-(A・B・C)	読み-(A・B・C)
4	漢字-(A・B・C)	読み-(A・B・C)
5	漢字-(A・B・C)	読み-(A・B・C)

【指導の備考】
 A: 覚悟していた・覚悟が解られた・覚悟してできた
 B: その場で覚悟が解らなかつた・覚悟を覚悟してできた
 C: 覚悟が解らなかつた・覚悟が覚悟が覚悟だった

担当名

学習した漢字を記録して、在籍学級の担任に情報提供します。

指導2 漢字読みプリント言葉のワーク(指導内容・方法の工夫)



「単語をまとまりとして読む」という得意な部分を生かして、単語探しをしながら、漢字を覚える学習をしました。



指導3 漢字書きプリント言葉のワーク(指導内容・方法の工夫)



視覚的な記憶の力を生かし、漢字を書く指導を行いました。



- (1)「単語をまとまりとして読む」得意な力を生かして、単語を見つけ出す指導をしました。
- (2)漢字の意味を辞書で調べ、関係する絵を描くことで、漢字の意味の理解を促しました。

指導の成果

- ★少しずつ、読める漢字が増えてきました。
- ★少しずつ、漢字の意味理解が進んできました。

- ◆ 児童それぞれの得意な力に着目して教材を開発することが大切です。
- ◆ 集中できる時間が短い児童には、短時間で終わる学習課題を組み合わせ、連続して行わせることで学習への意欲や集中力の向上が期待できます。